

それでは、時間をいただいたので、修了式にあたり少し話をします。明日の卒業式でも皆さんに式辞という形でお話をするので、今日は別の話をさせてください。

新型コロナウイルス感染症の話ばかりになって、皆さんもうんざりしているかもしれませんが、全国の中学校に限らず、小学校、高校、大学など今年卒業をする人たちは本校も含め大変な思いをされたことでしょう。昨年も急遽、学校が休校となり、卒業式も簡素な形で行われたと思いますが、それでも年度内は通常の学習に加え、修学旅行、学校祭などいつものように行われました。しかし、今年度は5月末までの臨時休校、夏休みの出校に加え、夏の部活動の地区大会の中止、学校祭の規模の縮小、修学旅行の旅行先変更や宿泊なしの日程など例年とは異なるものばかりでした。先生たちも急な対応に右往左往することも多く、何度となく校内や他の学校ともどうしていったらよいかを相談することがたくさんありました。高阪先生が、3年生を送る会的な会の中で皆さんの誰かが話した「何気ない日常を過ごせることの幸せ」について紹介しましたが、この「何気ない日常を過ごせる」ことがいかに幸せかを校長先生も実感した年となりました。

しかし、過去は取り戻せないのも、これからワクチン接種が始まり感染が収まって「何気ない日常」が戻ってくることを願っています。ただ、今年経験したことは、何もマイナスなことばかりではありません。ピンチをチャンスに変えて取り組み新しいものを創り上げました。これはまさに皆さんの力です。この状況でネガティブでなく、ポジティブな姿勢で動いた皆さんなら、これからどんな困難に対しても後ろ向きでなく、前を向いて進めます。自信をもって生きてください。

義務教育の9年間が終わり、これからは本当にそれぞれが自分の決めた道に進みます。5年後成人式で仲間と会ったときに、あのときはこうだったなどある意味いい思い出として語り合える日々がきっと来ることでしょう。皆さんは大変な年に卒業生であった貴重な存在です。きっとこれからの人生の中でいつまでも色褪せない思い出のアルバムとして残り、あのときのことを思えば絶対に何とかできるという気持ちで生活できることを願っています。

また、皆さんとの思い出はいくつかあり、その中に何気ないことかもしれませんが、面接練習の中で聞いた皆さんの発言の一つにはっとさせられることがあったので最後にそれを紹介します。大臣の発言をもとに自分の考えを述べ、うろ覚えで申し訳ないですが、その言葉は「できない理由を探すのではなく、今やれるためにはどうしたらよいかを考えることが大切。言い訳は通じない。今できなくてどうするのか」といった内容であったと思います。

人は、毎年同じようなことをすると心が安定し、また、何か大事なことをするときルーティンとして同じ動作をすることでいつもの自分の力を発揮できるよさもあります。一方で、いつもと違うこと、昨年と違うことを行わなければならないとき大きなエネルギーが必要となります。そして、新しい一步を踏み出すことを恐れるために、ともするとできない理由を探して例年通りいこうとする気持

ちが生まれます。しかし、今年度は変化をしないといけない状況が生まれたために、大きなエネルギーは必要でしたが新しい取組が進めやすかったことはあります。そうしたことで今までの活動を見直すきっかけになったのも事実です。皆さんが取り組んでくれた学校祭は、まさにその典型であったと思います。

これらのことから、先生たちも今年のような取組をもとに、もう一度来年は様々な活動をどうしていったらよいかを在校生の皆さんと考えていきたいと強く思いました。そのことを教えてくれた皆さんに感謝しています。変化を恐れず、この伝統ある佐織中学校のよさをさらにリニューアルして未来に引き継ぐべく努力していきます。皆さんも兄弟がいれば話を聞いたり、学校のホームページを見たりしながら同窓生として佐織中学校を見守ってくれたらと思います。

これで校長先生のお話を終わります。